

2009年度「宮津ブロック宣教司牧計画」の評価

宮津ブロック 記入者： 藤村智明（峰山教会）

[召命促進]

- ・教区テーマが“召命”であり、また、司祭年でもあったので、各人の“召命”を考える年とした。
- ・各教会で“司祭召命のための祈り”、“司祭のための祈り”が行われた。
- ・地区大会のテーマを「私たちの使命はなんですか？」とし、個人の体験から信仰を振り返り、また先人達が生きてきた歴史を見つめなおす取り組みを各教会で行い、将来につなげる教会のありかたを考えるきっかけにした。（地区大会は秋のインフルエンザ流行のため中止した。引き続き同じテーマで2010年に行なう予定。）

[聞くこと・交わること]

- ・各教会で、この地域に暮らすフィリピン出身の方との関わりは以前から日本語学校などで進められてきた。定期の英語のミサが行われなくなったが、普段のミサにいつも来られるようになったり、特にクリスマスの時などは大勢の方が参加されるようになった教会もある。12月に英語の司教ミサが行われるにあたってフィリピンの方にも準備に関わってもらって話を聞く機会が増えた。
- ・多くの教会では、ミサ後の茶話会などでの情報収集、共有化を大切にしている。

[生きるための学び]

- ・以前行なっていたブロックでの黙想会（待降節・四旬節）は司祭の提案で2009年は行なわなかったが、各教会で四旬節の過ごし方を考えて、分かち合いなどが行われた。
- ・高齢者の集いを開いている教会で、若い方も参加して共に聖書のビデオ鑑賞などを行うようになった。
- ・子供のキャンプではロザリオの祈りをテーマにして、祈りが子供の信仰教育の基本との認識をもって、準備の段階から大人も一から学ぶ、という取り組み方をした。
- ・教会としてではないが、いくつかの個人の方の話で地道な活動をしている。

[祈りを大切に]

- ・いくつかの教会で日曜日にロザリオの祈りや十字架の道行きを行っているが、ミサ時間との兼ね合いもあり、気持ち的にもあわただしくなってしまう。
- ・キャンプの時のロザリオの祈りの取り組みのほかにも、ミサの中での共同祈願、主の祈り、など信者としてよく知っている祈りについて見つめ直し、良く理解し、深く祈れるように工夫を始めたところもある。

全体的には、これまで(2008年の評価)と同様に、活動が設定された目標に沿って企画され、行われていたとは言えない。

振り返りを行うにも、目標を立てるにも十分な協議が行われず、認識があいまいなまま終わってしまう。また、「計画」を立てて、「評価」をするという言葉、方法に対して成果主義、企業的との意見もある。“何のために行っている事なのか”が理解されていないことがこのブロックの一番の問題点といえる。